

助動詞の用法に見る日本人学習者の傾向

3年 6117123 小野雅裕

研究目的

中学1年生から学び始める助動詞は日本人学習者にとっても比較的親しみのある文法事項であり、母語話者と学習者の助動詞の使い方を比較することで、学習者の助動詞使用の傾向を明らかにする。

研究手法

- 複数のコーパスから助動詞can, could, may, mightの使用数を抽出して、それぞれ1万語当たりの使用数に平均化する
- 各助動詞が持つ用法(can, could-能力・許可・可能性)(may, might-可能性・許可)について、各コーパスがそれぞれの意味をどの程度使用しているかを比較(ただし、mayの用法比較に関して、NICT JLE(NS)は用例の数が50に満たなかったため、約2倍にすることで平均化)

使用コーパス

- 日本人学習者コーパス
- ・JEFLL(中高生の英作文コーパス)
 - ・NICT JLE(タスクが設定された話し言葉コーパス)
- 母語話者コーパス
- ・NICT JLE(学習者と同じ内容の母語話者の話し言葉コーパス)
 - ・BNC Written(1980-90年代のイギリス英語コーパス-書き言葉)
 - ・BNC Spoken(1980-90年代のイギリス英語コーパス-話し言葉)

考察

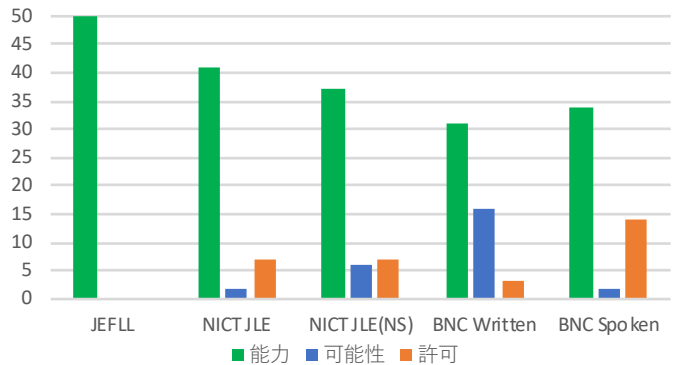
- ・結果1より、学習者はcould, may, mightの使用頻度に母語話者との隔たりが見られるが、書き言葉同士、話し言葉同士で比較するとcanに限っては比較的近い使用傾向を示していると言える。
- ・結果2より、タスクが設定されていること、抽出量の問題を考慮する必要はあるが、日本人学習者はcanは能力、mayは可能性といったように単語と意味を1対1で覚えている可能性が考えられる。

結果1

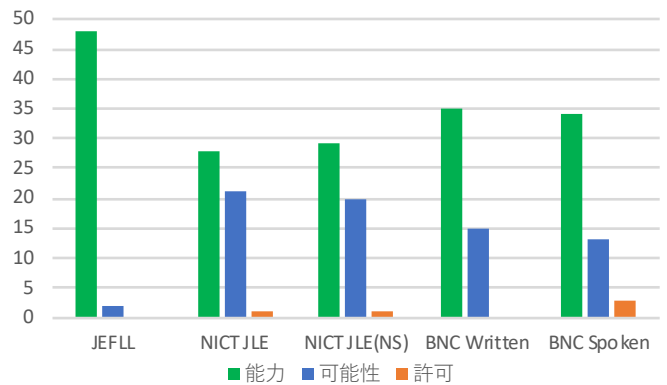
コーパス	JEFLL	NICT JLE	NICT JLE(NS)	BNC written	BNC spoken
総語数	約70万語	約200万語	約13万語	約8600万語	約1000万語
can	1,831	9,230	523	212,394	49,637
could	1,368	2,007	249	140,008	20,172
may	317	309	23	122,269	5,504
might	58	134	74	51,084	8,398
1万語あたり語数					
can	26.2	46.2	40.2	24.7	49.6
could	19.5	10.0	19.2	16.3	20.2
may	4.5	1.5	1.8	14.2	5.5
might	0.8	0.7	5.7	5.9	8.4

結果2

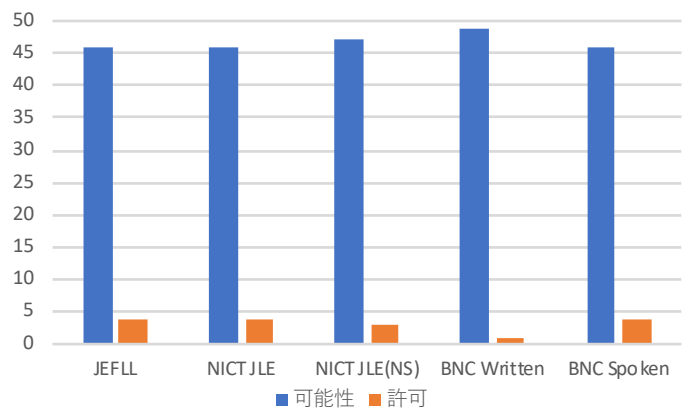
canの用法比較



couldの用法比較



mayの用法比較



mightの用法比較

